



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

# ベトナム子ども基金通信

**No.56**  
2012.6.8



今井記念海外協力基金によるベトナムの小学校での歯磨き指導 (2012.5.3 ロンアン省)

2012年3月、初めて留学生と一緒に東京へ渡った。総勢37名の学生たち。4月から朝日新聞奨学生として、新聞配達をする。心を鬼にし厳しく育てた私の学生。親バカと言われるかもしれないけど、立派に成長してくれたと誇りに思っていた学生。

ところが、空港での子どものようなはしゃぎよう。入国審査カードに何を書いたら良いか分からず記入できない学生たち。さらには、大事には至らなかったけれども、機内でパスポートを紛失し、空港

職員の簡単な日本語での質問に全く答えられない学生。

留学への第一歩を踏み出したばかりなのに、この体たらく。情けない。教育した自分も情けない。

こんなはずじゃなかったのにと思いながら彼らを観察していたけど、よく考えたら高校卒業間もない18歳。私だったら日本に来る勇気もなかったかもしれない。そう思うと、この年で家族と離れて異国へ渡ること立派だなど思ったり、不安いっぱい的心情を察すると切なくもなった

り。

昨年より、ホーチミン市から車で1時間、のどかな空心菜畑にポツリと建っている新施設で留學生育成が始まった。今までより集中して授業に取り組めるようになった。

今年の経験は、必ず来年へ生かそう。もっと強い学生育成を心に誓い、彼らと別れた。

クアン ティン ギー  
(Quang Tinh Nghi)  
ドンズー日本語学校副校長



# ベトナム歯磨き指導に同行して

2012年5月3日にホーチミン市で歯科医をされている平山医師と助手である秋田さん・Oanhさん、青葉奨学会のシュン氏、ベトナム子ども基金の黒羽氏、そして運転手と私の7名でロンアン省にある小学校を訪れました。今回の目的は、訪れた小学校の子どもたちの歯科検診を行い、虫歯を患っている子どもたちの調査です。私からは調査結果ではなく、私たちの道程と調査の様子についてご紹介させていただきます。



人形劇の前で左から平山医師、Oanhさん、秋田さん

私たちは、午前6時半頃にNAOMI DENTAL CLINIC（平山医師・他が勤務されている歯科医院）を出発して今回の目的地であるロンアン省の小学校へと向かいました。途中で、バインミー（フランスパンに食材を挟み込んだサンドイッチ。私は初めて食べた）を食べて、車で2時間かけて目的地の小学校に着きました。

到着後先生たちと軽くあいさつを行い、すぐに歯科検診と歯磨きについて教える人形劇の準備を行いました。準備が終わると、午前中に登校していた子どもたちを相手に人形劇を行い、歯を磨くと虫歯が治ると紹介をしました。このときの子どもたちが観劇を

している様子は、日本の小学生が観劇をしている様子と変わりません。小学生はどこの国でも同じだと印象を受けま



人形劇を観劇している子どもたち

した。

人形劇が終わると歯科検診が始まりました。私たちが珍しいのか子どもたちが心配なのかは分かりませんが、先生方を含む大人が検診の様子をのぞいています。



検診の様子をのぞき込む皆さん

子どもたちは不安そうな顔をして待っている子も決して少なくはなく、中には検診前に泣き出してしまいう子もいます。なぜ泣くのかを聞いてみると、歯医者は歯を抜くところだと思っていたため、とても怖かったみたいです。私の印象としましては、抜歯をしなくてはいけない状況にならないと歯医者に行かないのかなと感じました。検診を行っているとき、たまにお金を握り締めている子どもがいました。売店やものを売りに来ている人から、お菓子を買うた

めだそうです。そのお菓子が子どもたちにとってご飯の替わりをすることもあるそうです。検診後すぐにお菓子や甘いものを食べている子どもたちも多数いました。検診後にお菓子を食べる子どもたちを見た平山医師のコメントを紹介させていただきます。

「ものを売りに来ている人からお菓子を買って食べることを止めることはできません。それは今まで培った生活リズムであるため変えることはできないのです。また、ものを売りに来ている人たちにも当然生活があります。子どもたちがお菓子等を購入することも大事な収入源であるため、やめさせることはできません。食べ物や生活を変えることができない以上、うがいや歯磨き等で予防をしていく必要があります」

検診を行った平山医師に歯の様子をお伺いすると、「非



完全に溶けた歯がある子ども

常に虫歯の子どもたちが多く、虫歯が全くない子どもは片手で数えられる程度しかいませんでした。完全に溶けている歯がある子どもも複数見受けられました」とのこと。こうして午前中はおおよそ200人程度の子どもたちを検診しました。

お昼は、今回訪れた小学校の副校長先生方と一緒に近くのボー（牛肉）専門店で食事

をしました。食事をするためにお店を訪れる途中で馬や牛を見かけました。馬や牛を普通に道の近くいるのを私は見たことがない（観光馬車や乗馬等は別ですが）ので、非常に珍しく感じた光景でした。

食事が終わり小学校へ戻ると午後の部の検診が始まりました。午後は、午前の部に比べて高学年の子どもたちが対象で、調査を行いました。子どもたちは午前の部とほとんど変わらず、虫歯ない子どもたちが非常に少ない状況です。そしておよそ100人の子どもたちを診ると、今度は分

校へと移動します。平山医師は分校に以前訪れたことがあるみたいで、そのときの調査結果を持っていました。ここでは、およそ400人の子どもたちの歯科検診を行いました。検診が終わると平山医師が小学校の先生に、子どもたちの家族に前回訪れた際の調査検診結果を伝えるように言われていました。

また、分校の方でも子どもたちはお菓子を食べていたので、先生方にはお菓子を食べた後うがいをするように指導してくれとお願いをされていました。

この分校の子どもたちは非常に元気がよく、また人見知りをしないのか私にいろいろと話しかけてきていました。しかし、私はベトナム語が理解できなくてコミュニケーションがとれなかったのが残念です。

2012年5月3日は、およそ700名の歯科検診を行いホーチミン市への帰路につきました。

さかい ゆうき  
 (坂井 裕樹)  
 里親会員

## ベトナム大学訪問記

### ホーチミン編

2012年3月17日から20日まで、ホーチミン市とその近郊を訪問しました。初めてのベトナムです！

3泊4日の短い日程だったとはとても信じられない、大変充実した旅行でした。ベトナム子ども基金の理事である黒羽氏は、学生時代からの友人で、もう30年のつきあいです。彼の陰謀により、私は驚くべき3日間を過ごしたのです。もちろん観光もしました。メコン川の島巡りや、サイゴン川のディナークルーズなど、とても素晴らしいものでした。子ども基金の里子訪問もしましたし、ドンズー日本語学校のホウエ先生ともお会いできました。ドンズーでは飛び入り授業も！ ジェトロ事務所も訪問しました。またホーチミン市郊外のロンアン省で「春の木運動」のノート配りもやりました。しかしここでは、主な目的であった大学訪問についてのみ書きます。

#### 1. 大学訪問の目的と経緯

私は「子ども基金」の会員になってから、自分なりのやり方でベトナムの発展に貢献できないかとずっと考えていました。自分の職業を生かすなら、大学で心理学を教えるのはどうだろうと黒羽氏に聞きました。すると黒羽氏はとにかく大学を訪ねてみようかと提案し、ただちに青葉奨学会スタッフ

でドンズー日本語学校教師のジュン君に実務を依頼しました。その結果、「国家大学ホーチミン市人文社会科学大学」に心理学部があるのが分かり、ローン先生という渉外担当者のメールアドレスも探し当ててくれたのでした。そこで私は黒羽氏の指示に従って簡単なメールを書きました。すると驚くほどすぐに返事が来て、訪問を歓迎する、ということでした。あまりに早く話が進行することに戸惑いながらも、とにかく訪問することになったのです。訪問に際して、私が確認しようと思っていたことは次の2点でした。

第一に、心理学、特に私が専門とする基礎的な分野に対するニーズがベトナムの大学にあるのか、という問題です。心理学と聞くと、なんだか怪しげなものを想像される方が多いと思います。しかし実際の心理学は、人間理解のための非常に地味で真面目な分野です。例えば知覚、注意、記憶、言語、思春期、親子関係、職業適性、うつや不安、自傷行為、自殺など、心理学の関心の範囲は実に多様です。また心理学の基礎は、教養教育として大変有用なものです。さらに、心理学を学ぶことで多くの有用な技能を身につけることができます。例えば人間関係の基本的スキル、英語の読解力、コンピュータの知識、複雑な統計技

法を用いたデータ分析、などです。したがって私は、ベトナムでも大学教育に心理学の果たす意義は大きいと考えました。しかしニーズのないものを押し売りするわけにはいきません。

第二に、ベトナム語のできない日本人が講義や講演をする場合、何語を使うのがよいかという問題です。直接に話せるというメリットを考えると英語でやるのもよいでしょう。しかし英語に無理があれば、通訳を介した意思伝達システムを積極的に作ってみたい。黒羽氏はドンズー日本語学校の新規事業として、翻訳・通訳事業を構想しています。その具体的なひとつの取り組みとして、大学へ入っていくのはきわめて有用だろう、とも考えたのです。

#### 2. 大学訪問

3月19日の朝8時に、人文社会科学大学の心理学部を訪問しました。朝8時というのは驚きでしたが、ベトナムでは普通のことだと聞きました。そもそも授業が朝の7時頃からあるのですね。ホーチミン市の第1区、大きな病院の近くに人文社会科学大学のキャンパスがありました。ライト・ブルーに塗られた清潔な校舎でした。しかしキャンパスは非常に狭く、ほとんどの機能は郊外の新キャンパスに移動しているようです。この



ため残念ながら学生の皆さんにお会いすることはできませんでした。大学内のあちこちで学生がノートパソコンを使っており、その風景は日本の大学と変わりません。黒羽氏とシュン君に導かれ、



ホールで勉強する学生たち

白いワイシャツにネクタイを締めて、めちゃめちゃに緊張して訪問しました。簡素な校舎の2階に、Tam Ly Hoc (心理学) と書かれた掲示板があり、その横の部屋が心理学部でした。学部長以下7人の心理学の先生が迎えてくれました。学部長だけが男性で、あとは驚くほど若い女性の先生方でした。英語がよく通じました。しかし学部長は一貫してベトナム語でお話されました。重要なポイントはシュン君が適切にベトナム語で補足してくれて、とても助かりました。

まず訪問の目的をきちんと話さなければなりません。「社会が発展するにつれて社会科学系の学問、特に心理学の役割が重要になるでしょう。また日本とベトナムの友好関係の発展はお互いにとって重要であり、心理学における交流は大きな役割を果たすでしょう」、などといういささか大げさとも思える話を熱く語ってしまいました。先生方はうなずきながらここにこと聞いてくださいます。持ってきたボールペンや大学のパンフレットを配布すると、やはりここにこと受け取ってくれます。そして真剣にパンフレットを読んでくれます。私としては、ほとんど飛び込みのようにして訪問したので、どの程度まで実際に歓迎されているのか、全く自信がありませんでした。どこまで本気なのだろう、と心配でした。しかし会話は快調に進み、講演会や集中講義をしたらどうだろう、と結構具体的な話も出ました。非常に和やかな雰囲気、最初は緊張していた学部長も

ここにこしてきました。1時間以上話して「そろそろ失礼を」となったら、みんなで写真を撮りましょうということに。若い女性の先生方ははしゃぎ、写真ゼッタイ送ってくださいね、と何度も念押しされました。みんなで少しポーズを取って記念写真。とても楽しい訪問となりました。この写真はその後、大学のウェブサイトアップされていることが分かり、実に驚きました。



心理学部のスタッフと(手前がローン先生)

### 3. その後

帰国後、ローン先生と何度かメールをやりとりしました。このやりとりで、2つの問題については、なかなか簡単にはいかないことを痛感しました。まず、基礎的分野に対するニーズは、訪問のときには高く評価していただきました。しかしその後のメールでは、やはり基礎よりもカウンセリングやガイダンスに関する話をしてほしい、というニーズが強くなりました。予測されたことであり、これはまだ交渉中です。場合によっては、私はコーディネーターに徹し、知人のカウンセリング心理学の専門家を連れてくればいいのかも思っています。言語の件も似たところがあり、訪問のときには「学生はみな英語がきます」とおっしゃっていました。しかしその後のメールで、英語と通訳とどちらがいいかという話になったら、ぜひ通訳で、ということになりました。この2点は、この次のハノイ訪問でも重要なポイントとなりました。

この訪問には、ベトナムでの出会いの特徴がよく表れていたようです。始めに男性による儀礼的なあいさつがあること、その後はきわめて率直な態度でにぎやかに話すこと、とてもフレンドリーで、礼儀正しくてしかも笑顔があふれ

る会話となること、などです。それらのすべては、ベトナム初心者としての私にとって大変印象深い素晴らしいものでした。お会いしたすべての皆さん、ありがとうございました！

## ハノイ編

3月末のホーチミン市訪問の興奮もまださめやらぬ5月2日から6日まで、4泊5日の日程でハノイ市を訪問しました。ホーチミンでやったことをハノイでもやりたい、というきわめて単純な発想です。ハノイ市内の名所見物や、世界遺産のハロン湾観光、ハナム省の里子調査など、いろいろなことがありましたが、大学訪問のことだけを書きます。5月4日に3つの教育研究機関を訪問しました。ハノイ師範大学の心理学部、国立社会科学アカデミーの心理学研究所と東北アジア研究所です。黒羽氏と私の思いつきのような行動は、かなり本格的なことになってきました。



ハロン湾でザンさんと

初日の市内観光のとき、ザンさんという方がガイドをしてくださいました。ハノイ大学の日本語学科の4年生で、日本語がとても上手でした。しかし「大学生がアルバイトでガイドをしまーす！」という雰囲気ではなく、ひと言ひと言に知性が感じられるのです。その後明らかになったのは、彼女は通訳の訓練を受けた日本語専門家であり、現地のコーディネートを依頼したトウさんが、高等教育機関訪問という私たちの目的をきちんと考慮し、通訳として彼女を選んでくれたということでした。この2人には本当に感謝です。一気に世界が広がりました。そして、優秀な通訳の方とチームを組めば、下手な英語で会話するよりはるかに成果が上がるということを実感しました。これが今回の訪問

の重要な成果でした。

## 1. ハノイ師範大学

5月4日の朝10時、黒羽氏、トウさん、ザンさん、私の4人で、師範大学を訪問しました。師範大学は広くて複雑に入り組んだキャンパスで、学生もたくさん歩いていました。あちこちでスーツを着た学生が大きな花束を持っています。卒論の発表会だということでした。キャンパスでは、やはりノートパソコンを開いている学生が目立ちます。広い立派な部屋に通され、副学部長のソン先生とお会いしました。メールでの印象通り、非常に気さくで明るい先生で



ソン先生

した。英語がうまく、長身でスポーツマンタイプ。人格心理学がご専門ということでした。専門教育はロシアで受けたそうです。心理学の基礎分野の教育ニーズはありますか、という私の質問には、「当然あります！ あらゆる分野で、教育上の援助が必要です。すでにこれまでも、アメリカやオーストラリアの教授が教えにきてくれた実績があります。これからじっくり相談していきましょう！」と答えてくださいました。

先生としばらく話したのち、部屋にたくさんの若者が入ってきました。20人以上いたのでは。広い部屋がみるみる満員になりました。大部分は学部の学生で、非常に緊張していました。とても真面目でかしこそうな学生たちです。圧倒的に女子が多いのは日本の心理学科と同じです。何人か大学院生と思われる若い男性がいましたが、彼らは教員なのだそうです。これには驚きました。若者はファッションから何から、本当に日本人と変わりませんね。自由に話してくださいと言われ、まず自己紹介。そして大学訪問の目的を話しました。学生が相手なので「私は

心理学の教育を日本からベトナムに出前しようと考えています。皆さんはそれが実現したら、興味がありますか？」というふうに。まず英語で話してみました。学生たちは非常に緊張していて、会話はなかなかうまく進みません。するとごく自然に、ザンさんが私の話をベトナム語に通訳してくださいました。どうやら彼女は、英語も日本語も、さらにそれらがチャンポン状態になっても、全く問題なくすらすらとベトナム語に通訳できるのです。私は驚嘆しました。しかも心理学の用語をきちんと訳している！ちゃんと準備をしてくれているのです。

ひとりの女子学生が頑張って英語で質問しました。しかし私にはそのベトナム語なまりの英語が全く分からず、困惑。まずい、傷つけちゃうかも。しかしザンさんはこれも瞬時に日本語に訳してくれました。すごい実力！ そのうちリズムができてきて、私とザンさんはひとつの統一的言語システムとして機能し、みごとに会話が成立しました。言葉の壁を越える瞬間を味わったのです！



心理学部の学生たちと

学生からの質問で印象的だったのは、「東日本大震災で被災した日本人があれほどすぐに立ち直ったのは、日本の心理学が優れているからだと思います。どのようなケアをしたのですか」というものです。はっとしました。実は私の故郷は三陸沿岸で、津波で根こそぎやられました。被災後に何回も現地に行っております。私はこう答えました。

「被災者は立ち直ったわけではありません。日本人は感情を表に出さないのです。本当に悲しいときは特に。そこはベトナムの人と違うかもしれません。心の中では深く悲しんでいます。つまりこの問題は心理学とはあまり関係ない

と思います。これは文化の問題です。もちろん被災地では多くの心理学専門家が活躍していますが」

ちょっとしんみりしてしまいましたが、こういう複雑な内容の話もザンさんの通訳によってきちんと伝わりました。それは学生たちの態度を見れば分かります。

学生の皆さんと直接会えたことは、本当に素晴らしい体験でした。あっという間に時間がたってしまいました。その後はみんなでお昼ご飯を食べました。アヒルとモロヘイヤ(?)の鍋でした！

## 2. 心理学研究所と

### 東北アジア研究所

国立社会科学アカデミーは日本大使館のすぐ近くにあり、お役所風の堂々とした建物が並んでいました。ここは、東北アジア研究所に勤務するアインさん(黒羽氏の知り合い)の紹介です。昼食後すぐに訪問しました。心理学研究所では、ふかふかの高価そうな椅子の並ぶ立派な会議室に通されました。テーブルにはマイクがついており、まるで国連の会議室です。師範大学とは全く雰囲気異なります。緊張が高まります。心理学研究所長のズン先生と研究員のハオ先生とお会いしました。研究所なので若い学生はいません。ズン先生は重々しく儀礼的なあいさつをベトナム語でなさいました。その後は快活なハオ先生が驚くほど流暢な英語でずっとお話しされました。私は例によって「経済の進展とともに社会科学、特に心理学の果たす役割は大きくなる。日本とベトナムがこの分野で協力するのは意義のあることである」というあいさつ。しかしその後、完全に相手のペースにはまらず。ハオ先生はにこやかに私の顔をじっと



ハオ先生(左)とズン先生



見つめながら、私の所属する大学の名称の由来、規模、モットー、心理学科の構成、などについて流れるように話し、それを心理学研究所と比較し、類似点を列挙し、今後の連携について語りました。すべて下調べしているのです。私はあぜんとするばかり。さらに「このズン先生はベトナムの心理学界で最も偉い方です。我々を通せば、ベトナムでどのような研究、調査、教育も可能です。任せなさい」と。どうも私たちは早くもベトナム心理学のトップに到達してしまっただけです。うれしいけれどちょっと荷が重い！ さらに「実は我々2人は、6月に東京へ出張するのです。東大を訪問しますが、あなたの大学は東大から近いでしょう（調べている！）。ぜひあなたの大学を訪問し、今後の公式な交流へと発展させていきたい」。私は慌てて「いや、この訪問は、最初に申し上げたようにあくまで私的な訪問であり、私は大学を代表するものではありません」と。すると「それは十分に理解しております。私的なご訪問、大いに結構、しかしそれが公的な交流へ発展したらなお素晴らしいでしょう。我々はさまざまな支援を日本から受けています。その支援を心理学領域にまで広げることがこれからの課題です。協力し合い、頑

張ろうではありませんか！」。いやもう、参りました。ごあいさつをして退出したら、頭がくらくらします。ベトナムの国家レベルの先生を相手にするのは、私たちにはまだ早いです。

その後、全く空き時間なしで東北アジア研究所を訪問しましたが、私は精神的疲労が甚だしく、うまく話せませんでした。研究員のアインさん（日本の海外労働者の社会学的研究が専門）と、所長のミン先生（経済学）とお話しました。私は最初のあいさつがうまくできず、非常に恥ずかしく感じました。しかも東北アジア研究所の研究内容は私の専門ではなく、どういうお話をしたらよいか、全く頭が働かない。ミン先生は「君たちは何をしなくて訪問したのかなあ？」という表情で、アインさんもちょっと困ってしま



アインさん(右端)、ミン先生と

たが、そこはフレンドリーなベトナム人。だんだん笑顔になっていろいろな話が弾みました。お土産のコーヒーまでいただき、みんなでなごやかに写真を撮りました。私は心の中で「今日は3戦1勝1敗1引き分けかな。それほど悪くないよね」とつぶやきました。そもそも3カ所を1日で回るのは、ちょっと無理でしたね。あとでアインさんから「いい出会いでした」というメールをいただき、恐縮するとともにかなりほっとしました。旧市街のホテルへ戻り、しばし休憩。

夜は黒羽氏のハノイの友人を15人くらい招待して、レストランで大宴会をしました。達成感があり、素晴らしい夜となりました。精神的にきつかったですが、私たちの構想する「心理学の出前」は、きわめて具体的な水準へと進んだようです。今回は本当にたくさんの方々とお会いできました。特にズンさんとの出会いは実に大きな財産となりました。素晴らしい出会いでした。必ず次につなげます。ベトナムの友人の皆さん、本当にありがとうございます！

みちまた ちかし  
(道又 爾)

里親会員  
上智大学教授(心理学)

## 会員各位

## 2012年定期会員総会について（通知）

### 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金代表 近藤 昇

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素はベトナム子ども基金の活動に温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて下記の通り2012年定期会員総会を開催いたします。ご多忙中恐縮ですが、ご出席いただきたくご通知申し上げます。なお、会員総会は正会員（里親基金会員、一般基金会員）の2分の1以上の出席をもって成立します。当日総会にご出席なれない方で委任状の提出のない方は、ご意見を議長に一任したものとさせていただきます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。同封の「出欠はがき」に必要事項をご記入の上、お手数ですが、切手を貼って、6月14日（木）必着でご返信ください。

敬具

記

日時 2012年6月16日（土）午後2時から午後5時  
場所 アジア文化会館101教室

議題 1号議案 2011年度活動報告  
2号議案 2011年度決算報告および会計監査報告  
3号議案 2012年度活動計画案  
4号議案 2012年度予算案  
5号議案 認定資格取得について

20分程度写真を用いて2011年度の活動報告を行う予定です。また総会終了後、日本で在学、在職している元青葉奨学生を7名招いて会員の皆さまとの交流会を行います。彼らと交流するまたとない機会ですので、多くの皆さまの

ご出席をお待ちしております。

交流会では、飲食をしながら皆さんと楽しいひとときを過ごしたいと考えておりますので、お菓子、おつまみ、お酒などご持参いただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

## ■ベトナム子ども基金2011年度活動報告

2011年度にベトナム子ども基金が受け持った青葉奨学生（里子）は348名でした。会員の皆さま、ご支援ご協力くださった皆さまに心よりお礼申し上げます。2012年3月29日に、6,809,020円を青葉奨学会に送金しました。その内訳は青葉奨学金と管理費4,227,000円、黄葉奨学金834,112円、春の木運動協力寄金619,000円、愛の教室改修費用102,308円です。今回の春の木運動は2011年12月の呼びかけから、2012年4月6日までの間に多くの皆さまにご協力いただきました。3月29日の送金に間に合いませんでした寄金につきましては、次回送金時に合わせて送る予定です。この寄金で経済的に恵まれない家庭の多い地域の児童、生徒にノートを贈りました。

「ベトナム子ども基金通信」53号、54号、55号の3回発行し皆さまに子ども基金の活動や、里子からの手紙などをお知らせしました。当初4回発行を予定しておりましたが、達成できませんでしたことをお詫びいたします。

スタディーツアーは参加者10名で、11月19日成田発、ハノイ3泊、ホーチミン3泊、機中1泊で11月26日に帰国のスケジュールで行いました。ベトナム滞在中は、ハノイ、ホーチミンの両都市で青葉奨学会のスタッフや関係者を交え、里子とその家族と交流しました。また会員の支援で建設した学校や施設を訪問し、現地の人々との交流を深めました。

10月のABK秋祭り、2月の文京区国際交流フェスタに参加し、当基金の活動をPRし、また来場者にベトナムコーヒーを振る舞い寄付を募りました。

NPO法人として新たなパンフレットを作成し、皆さまにお送りするとともにご協力者に配布を依頼し、また、国際交流フェスタで来場者の方に配布しました。

事務局運営会議は、原則として毎月第3土曜日の午後を開かれました。ただし、2月は文京区国際交流フェスタ参加のため、開催しませんでした。運営会議後に勉強会を開催し、ベトナム文化、社会に対する理解を深めるとともに、会員相互の交流を図りました。

2011年4月から2012年3月までに新しく入会された会員の方は里親基金12名（内、学生2名）、一般基金会員1名、賛助基金会員1名、個別黄葉基金会員1名です。今後とも末長いお付き合いをお願い申し上げます。

## ■ベトナム子ども基金2012年度活動計画案

2012年に子ども基金が受け持つことになりました青葉奨学生（里子）380名が安心して学業に専念できるよう、奨学金支給事業を継続します。

里子たちとの手紙のやりとりは、昨年度導入したスキャナーを使用し、ベトナムから手紙のデータが前もって送られてくるようになり、翻訳にかかる時間を短縮できました。また、これまで郵送によって行っていた翻訳依頼を、データのやりとりで行うため、発送費の軽減につながりました。しかし、ベトナムから送られてくる手紙が現地から発送されるまでに時間がかかりすぎているものが見られますので、引き続き青葉奨学会とともに、ベトナム国内での手紙の発送に関して改善に努めてまいります。また翻訳ボランティアの皆さんは、青葉奨学会スタッフと在日ベトナム人留学生、社会人の皆さんにご協力をお願いします。

今年の「春の木運動」についても青葉奨学会から要請があり次第、皆さまにご協力をお願いいたします。厳しい経済状況の下で頑張っている子どもたちがお正月を迎えるため、少しでもお役に立ちたいと思います。

2011年に引き続き、今年度も「ベトナムにおける子どもたちの虫歯予防のための歯みがき指導」の支援で助成金を受給することができました。指導は、青葉奨学会会員の平山恵理子医師を中心に青葉奨学会の協力を得て行います。すでに子ども基金と皆さまで支援している里子が在籍する、ホーチミン近在の学校を対象に、実際の指導を始めております。今後も虫歯予防のため歯磨き習慣の定着を目指し、指導を継続していきます。平山医師については通信55号をご参照ください。

里子訪問スタディーツアーを今年も行う予定です。これまで10月、あるいは11月にツアーを行ってまいりましたが、事務局から同行するスタッフの都合により、今年度は3月に行う予定です。ツアーの詳細が決まり次第、皆さまにご連絡いたします。

「ベトナム子ども基金通信」は引き続き、子ども基金の支援の様子、里子たち生活の様子や、気持ちをできるだけお伝えしていきます。今年度は年4回発行を予定しています。

事務局運営会議は、今年度も毎月第3土曜日に開催を予定しています。会議の後に、主にベトナム人留学生、社会人の皆さんからベトナムのさまざまな分野についての話や、異文化体験に基づいた話を伺い、参加者の間で歓談します。会員の皆さま、ご家族、ご友人の皆さまの参加をお待ちしております。

## ■認定資格取得について

認定NPO法人制度とは、NPO法人のうち、一定の要件を満たし、組織運営や事業活動が適正で公益の増進に資すると認められた法人を認定NPO法人として認定する制度です。

認定を受けることにより、法人としての信用度が高まるとともに、新たな支援を受けられ可能性が広がります。ご寄付についても条件を満足している場合※、手続きを行うことで寄付控除を受けることが可能になります。

今年4月1日施行の法律によって、所轄庁（子ども基金においては東京都）が認定事務を行うこととなり、併せて認定資格取得のための要件が緩和されました。今年度中の認定資格を取得するため、事務局が必要な事務手続きを行います。

※条件につきましては、今後申請作業を進めながら、改めてご説明いたします。

## 書式第8号(法第10条関係)

## 平成23年度 特定非営利活動に係る事業 収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人  
ベトナム子ども基金

(単位:円)

科 目	金	額	
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費収入	5,060,000	5,060,000	
2 補助金等収入			
民間助成金収入	510,000	510,000	
3 寄付金収入			
賛助金収入	298,600		
黄梅基金収入	330,000		
春の木運動収入	619,000		
寄付	14,709	1,262,309	
4 その他収入			
利息収入	273		
前期繰入金	2,858,748	2,859,021	
経常収入合計			9,691,330
II 経常支出の部			
1 事業費			
(1) 奨学金事業費	5,199,000	5,199,000	
(2) 支援事業費		1,610,020	
黄梅基金	834,112		
施設改修事業	102,308		
その他の支援	673,600		
(3) 助成金事業		510,000	
通信環境改善事業	477,367		
広報活動用パンフレットの作成	32,633		
(4) 交流事業			
「通信」発行	151,060		
スタディーツアー	51,677	202,737	
(5) 情報交換事業			
ABK秋祭り等への参加	2,058		
ホームページの維持更新	9,407	11,465	
2 管理費			
家賃(会議費込み)	289,651		
通信費	211,841		
発送費	13,315		
備品・消耗費	37,165		
印刷・コピー費	6,450		
交通費	590,400		
銀行振込手数料	3,510		
雑費	700	1,153,032	
経常支出合計			8,686,254
経常収支差額			1,005,076
当期収支差額			1,005,076
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			1,005,076



書式第10号(法28条関係)

平成23年度 非営利活動に係る事業 会計貸借対照表			
平成24年3月31日現在			
特定非営利活動法人 ベトナム子ども基金 (単位：円)			
科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	1,005,076		
未収入金			0
流動資産合計		1,005,076	
2 固定資産			
固定資産合計			0
資産合計			1,005,076
II 負債の部			
1 流動負債合計			0
2 固定負債合計			0
負債合計			0
III 正味財産の部			
正味財産合計			1,005,076
負債及び正味財産合計			1,005,076

書式第10号(法28条関係)

平成23年度 非営利活動に係る事業 会計財産目録			
平成24年3月31日現在			
特定非営利活動法人 ベトナム子ども基金 (単位：円)			
科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	81,058		
普通預金			
みずほ銀行駒込支店 (1)	284,522		
みずほ銀行駒込支店 (2)	100,007		
みずほ銀行駒込支店 (3)	0		
みずほ銀行駒込支店 (4)	0		
郵便振替口座 (1)	215,160		
郵便振替口座 (2)	0		
郵便振替口座 (3)	0		
郵便振替口座 (4)	10,000		
郵便貯金	314,329		
流動資産合計		1,005,076	
2 固定資産			
固定資産合計			0
資産合計			1,005,076
II 負債の部			
1 流動負債合計			0
2 固定負債合計			0
負債合計			0
正味財産			1,005,076

平成24年度 事業計画書(案)

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

1 事業実施の方針

経済的理由等により教育を受ける機会に恵まれないベトナムの子どもたちに対して、奨学金を支給し、学校建設や教育施設・改修し、教育環境を改善していく。また、活動の様子を知らせるために通信を発行して、会員と関係者との交流に役立てる。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲および予定人数	支出見込み額(千円)
奨学金支給事業	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する	6月、1月	ベトナム全域	10人	就学が困難な児童生徒380人	4,200
奨学金支給事業(黄梅基金)	ベトナムの子どもたちに奨学金を支給する(単年)	1月~2月	ベトナム	3人	就学が困難な児童生徒30人	400
学校建設、施設改修事業	学校建設および施設改修	随時	ベトナム全域	5人	辺地の児童生徒100人	100
その他支援事業	自然災害被災地域の小中学校、孤児院等への支援(春の木運動)	1月~2月	ベトナム中部南部地域	3人	対象地域の児童生徒500人	600
助成金事業	ベトナムの子どもたちの虫歯予防のための歯磨き指導事業	5月、7月、10月	ベトナム中部、南部地域	5人	対象地域の児童生徒300人	410
交流事業	会員と関係者との交流のために「ベトナム子ども基金通信」を発行する	2月、5月、8月、11月	法人事務局	5人	会員と関係者500人	220
交流事業	スタディーツアーを実行し、現地の学校および生徒たちと交流を図る	3月	ベトナム北部南部	3人	会員15人と生徒および学校関係者学級	60
情報交換事業	ABK祭り、国際交流フェスタ等に参加し、広報活動、他団体との情報交換を行う	10月、2月	東京都内	10人	一般市民不特定多数	10
情報交換事業	ホームページの充実を図り、活動内容を紹介し、国際交流の啓発を図る	随時	法人事務局	3人	一般市民不特定多数	10
情報交換事業	事務運営上必要なPCスキルの向上およびセキュリティ対策の強化	随時	法人事務局ベトナム	3人	法人事務局、ベトナム青葉奨学会事務局5人	30

書式第8号(法第10条関係)

## 平成24年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支予算書(案)

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人

ベトナム子ども基金

(単位:円)

科 目	金	額	
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費収入	5,200,000	5,200,000	
2 補助金等収入		410,000	
民間助成金収入	410,000		
3 寄付金収入		1,300,000	
賛助金収入	300,000		
黄梅基金収入	400,000		
春の木運動収入	600,000		
4 その他収入		1,005,576	
利息収入	500		
前期繰入金	1,005,076		
経常収入合計			7,915,576
II 経常支出の部			
1 事業費			
(1) 奨学金事業費	4,200,000	4,200,000	
(2) 支援事業費		1,100,000	
黄梅基金による支援	400,000		
春の木運動により支援	600,000		
その他の支援	100,000		
(3) 助成金事業	410,000	410,000	
(4) 交流事業		280,000	
「通信」発行	220,000		
スタディーツアー	60,000		
(5) 情報交換事業		50,000	
ABK祭り等への参加	10,000		
ホームページの維持更新	10,000		
通信環境整備及び研修	30,000		
2 管理費		1,275,000	
家賃(光熱水費込)	420,000		
通信費	120,000		
発送費	20,000		
備品・消耗費	50,000		
印刷・コピー費	20,000		
交通費	600,000		
ベトナム送金手数料	10,000		
銀行振込手数料	5,000		
3 予備費	30,000	30,000	
経常支出合計			7,345,000
経常収支差額			570,576
当期収支差額			570,576
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			570,576



## ベトナムからの手紙

### 近況報告

レー・ディン・トゥン

私は、レー・ディン・トゥンです。出身はナムディンです。私は今まで10年もの長い間、青葉奨学会から奨学金をいただきました。青葉奨学金のお金で、私はたくさんの困難を乗り越えることができました。

私が第3学年のとき、私の学習成績はとてもよかったです。私の小学校の校長先生は、私を青葉奨学会に推薦しました。それで、私は青葉奨学金をいただくことができました。私はとてもうれしかったです。そのときから青葉奨学金のおかげで、私は、良い条件の中で、勉強を続けることができました。

私は青葉奨学金のお金を全部勉強に使いました。例えば本を買ったり、学費を払ったりしました。そして私はいつも一生懸命勉強しました。ですから、10年間連続、私は最優秀生徒で、よい成績をとりました。私は里親さまと青葉奨学会にお礼状を送りました。

高校生のとき、青葉奨学会を通して、ドンズー日本語学校と日本へ留学するプログラムのことを知りました。そして、私はこの留学のプログラムについて調べました。私はこれに大変興味を持ちました。私は日本に留学することを希望しました。ですから、高校を卒業してから、ドンズー日本語学校留学生クラスの試験を受けました。そして私は合格しました。ドンズー日本語学校で、2012年3月に日本へ留学するために、私はいつも日本語を真面目に勉強しています。

私は日本の文化と経済を知って、日本でいろいろなことを勉強したいですから、日本へ留学に行くつもりです。私はドンズー日

本語学校で留学生として選ばれて、とてもうれしかったです。日本で、私は日本語の勉強を続けて、電気と電子を勉強するつもりです。社会的地位がある人になるために、日本で私は一生懸命勉強します。

私の夢は、2年間日本で働いてから、ベトナムに帰国して、ベトナムの会社に勤めることです。

最後に、私は、私が学校で学んでいたとき私を手助けしてくださった方々に、感謝の気持ちを伝えたいです。

本当にありがとうございます。

トゥン君は、現在都内の日本語学校に通う傍ら、新聞奨学生として新聞配達の仕事をしています。午前2時頃から朝刊配達準備を始め、新聞配達を終えると、7時から8時半までの間に勉強し、9時から日本語学校に通うという忙しい毎日を送っています。今後、時間があるときには、後輩のためにも子ども基金のお手伝いをしたいと申し出てくれる頼もしい青年です。(事務局)

### 支援が困難を乗り越える力に

グエン・ブイ・ゴック・フエン

里親さまにいろいろお話しいたことがあって、今日、久しぶりに手紙を書きます。最初に里親さまのご健康をお伺いしたいと思います。里親さまとご家族の皆さま、お元気に過ごしていらっしゃいますか？ 長い間、里親さまからお手紙が来ないので、今どんな状況にいらっしゃるのか分かりませんが、私は、いつも皆さまのご健康やご幸福をお祈りしています。

9月が来て、新学年も始まりました。2カ月間の夏休みの後、先生と友達に久しぶりに会えるのでうれしい気持ちで学校に行きました。夏休みにしていたことについて、いろいろ友達に話しました。本当に楽しかったです。

時の流れは早いですね。私は今、大学3年生になりました。大

学でさまざまなことを勉強できましたが、自分が少しずつ成長して、大人になっていくことが一番うれしく思います。3年生になって初めて専門知識の深さ、重さを感じています。覚えなければならぬ量もとても多くなってきますが、精一杯頑張って、良い成績で卒業したいと思います。

私の家族は6人います。祖母、両親、兄2人と私です。祖母は年取っているの、髪の毛が真っ白になり、肌にいっぱいしわが寄っています。祖母は最近体調が崩れて、今まっすぐに立つこともかなり大変です。それなのに、時間が空いていたら、いつも母の家事を手伝っています。母は今、織物の商売をしています。夜中1時にみんながまだ寝ている間に、母は遠いところまで行って織物を買ってきて、またそれを市場で売ります。最近、売れ行きが順調ではありません。物価が高くなって、あまり安く買えないのにちょっと高い値段をつけると、全然売れません。兄2人も、今、靴を作る工場で働いていますが、給料が高くありません。お金の価値が低くなっている今のベトナムでは生活がとても大変です。それに、私は仕送りを両親からもらって、学費や生活費などに使っています。家賃が1カ月40万ドンぐらいです(訳注：約1600円)。困っている状況の中で、里親さまから支援をいただけて、本当に大きな助けとなっています。心から感謝しています。里親さまの温かい気持ちが伝わってきて、私と家族が困難を乗り越える力に変わります。私はこれからも頑張って勉強して、立派な社会人になりたいです。夢をかなえるまで、私は里親さまからの応援をいただきたいと思っています。

里親さま、本当にありがとうございます。



## ●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2012年2月 里親基金

賛助基金

学生基金

2012年3月 里親基金

賛助基金

学生基金

2012年4月 里親基金

黄梅基金

一般基金

春の木運動

## ◆ベトナム子ども基金会員募集！（友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！）

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ): トクヒ)ベトナムコドモキキン

里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

■振込口座ご確認のお願い!!■ 当基金はNPO法人に移行後、10月で3年を迎えます。これまで経過措置として任意団体時の口座へのお振込みを受け付けておりましたが、2012年12月30日をもちまして口座を閉鎖いたします。お手数おかけいたしますが、お振込口座につきまして、今一度ご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

## ◆事務局だより

ベトナム子ども基金通信を最後までご覧いただきましてありがとうございます。今年度も皆さまと一緒に、ベトナムの子どもたちを支援してまいりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

事務局では、総会に向けて準備を進めております。これまで総会では、留学生の皆さんにスピーチをお願いしておりましたが、今回は、特に元青葉奨学生の皆さんを招いて、交流会の場を設け皆さまと楽しい時間を過ごしたいと考えております。参加して下さるメンバーは、普段より翻訳などで子ども基金の活動に協力してくださったり、またこれから協力したいという意志がある方たちで、皆さん交流会を楽しみにしてくださっています。ひとりでも多くの方に総会に足を運んでいただき、会員同士、在日ベトナム人の方々との親睦を深めていただければ幸いです。総会に先立ちまして、事務局で彼らとの座談会を行い、今後の当基金の活動のためいろいろなお話を伺います。座談会の内容につきましては、次号以降で紹介してまいります。

また、総会の議案にもありますが、現在、認定資格取得に向け専門機関のセミナーに参加して、申請の準備を進めております。東京都の説明では、認定事務に6カ月を要する見込みとのことですので、今回の総会で認定取得の議案が可決されましたら、年度内取得に向け、本格的に作業を進めてまいります。

今年度も毎月第3土曜日にアジア文化会館で会議、勉強会を行っております。ご家族、ご友人、どなたでもご参加いただけますので、皆さまのお越しをお待ちしております。その他、活動に関してのご要望、ご質問も受け付けておりますので、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。(坂本)